

もはいつているが)自身の選択によって財産区が開放化されてきた。それは直接的には財産区の財産をより積極的に旧村民のために利用したいという考えからである。しかし成員権の拡大は、結果として旧村民に地域の共同性についての検討を促すことになっている。なぜなら、それは、行政上の区域設定への対処を通じて、地区の範疇とは何かという議論を村民の間に引き起こしはじめているからである。この問題に対して地区では転入者を含めた地区の結束をはかることによって地域の自立性を確保しようとしている。それはこの地区が「川面六町」の旧村民のみではなく、新興住宅地の転入者も含めた地域コミュニティ自体を財産区の権利者集団と見なす方向をとっていることを意味する。

この事例で見ると都市の中に存在する財産区は、財産区関係者の錯誤と工夫過程を経ながら、地区の主体性を保持し、地区の福利を保障する地域資源のひとつとなる場合もある。ただ、財産区の財産をどのように利用するかという点については、いまだ明確な解答は見いだせないというのが、全国に散在する都市財産区の現状ではないだろうか。

文献

- 倉田和四生 1973 「大都市の住民自治組織」『関西学院大学社会学部紀要』26
- 倉田和四夫 1977 「大都市における財産区管理の実態(1)」『関西学院大学社会学部紀要』34
- 倉田和四夫 1978 「大都市における財産区管理の実態(2)」『関西学院大学社会学部紀要』37
- 倉田和四生 1985 『都市コミュニティ論』法律文化社
- 山本剛郎 1991a 「都市の発展と地域集団」『関西学院大学社会学部紀要』63
- 山本剛郎 1991b 「市街地再開発事業と地域社会」『関西学院大学社会学部紀要』64
- 山本剛郎 1992 「市街地再開発事業と地域社会」『関西学院大学社会学部紀要』65
- 山本剛郎 1992 「長谷地区の変貌」『宝塚市史紀要』「たからづか」第9号
- 中田実 1993 「地域社会と地域住民組織—地域共同管理主体形成論序説—」『地域共同管理の社会学』東信堂
- 渡辺洋三編著 1974 「財産区の沿革と問題点」『入会と財産区』勁草書房
- 安井真奈美 1994 「変貌する村落社会—能登地方における「ツラ」概念の近代—」『民族学研究』59/1
- 谷 富夫 1992 「エスニックコミュニティの生態研究」『現代都市を解説する』鈴木広編 ミネルヴァ書房
- 福田アジオ 1989 「むら八分と噂話」『時間の民俗学・空間の民俗学』木耳社
- 池田寛二 1992 「都市農業の現在と可能性」『現代都市を解説する』鈴木広編 ミネルヴァ書房
- 山本 登 1970 「現代日本の都市と都市社会論」『社会学評論』82
- 岩井萬亀 1974 「入会権の収奪—神戸市・財産区財産管理処分条例、同財産区有財産管理規則の事例—」『農業法学研究』第9号
- 鳥越皓之 1994 『地域自治会の研究—一部落会・町内会・自治会の展開過程—』ミネルヴァ書房
- 倉沢進・町村敬志編 1992 『都市社会学のフロンティア1 構造・空間・変動』日本評論社